

Feeling excited

Dance with Heart
The Kikunokai Troupe
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new
era.
Chairperson Michiyo Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会

〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001 (代表)

菊の会京都八瀬研修所

〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

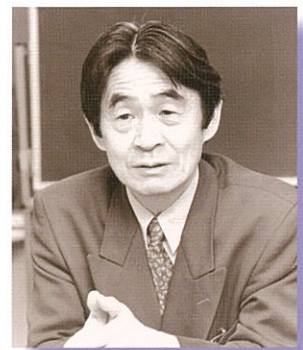
Dancing from the heart



尾上菊乃里事
畑道代

四季の叙情
「風道」より

舞踊芸術賞おめでとうございます。 —これからも舞踊界に刺激を与え続けて下さい—



舞踊評論家 松蔭大学教授
うらわまこと

尾上菊乃里さん、東京新聞社制定舞踊芸術賞ご受賞おめでとうございます。受賞を心待ちにしていた1ファンとして本当に嬉しいことです。賞は尾上菊乃里さんとして受けられましたので、こういわせていただきました。もちろん、古典舞踊の名手として、また多くの優秀な舞踊家を育てられたことで、「舞踊芸術の向上発展に寄与した舞踊家」として十分以上の価値はあるのですが、私としては、舞踊集団菊の会代表としての畑道代さんに、さらに強く心を打たれています。

私見ですが、菊の会は、その設立の志も具体的な活動も、一般的な舞踊団、ダンスカンパニーとは異なる特質を持っていると思っております。ひとつは芸術監督、振付者と舞踊家による団体というより、もっと家族のような人間的な結び付きがあり、メンバーはたんに技術だけでなく人格そのものがこの集団のなかで切磋琢磨され、成長しているように感じられることです。活動にも特徴があります。拝見する度に涙を抑えられない名作『カッチャ行かねこの道を』をはじめ、多くの楽しく感動的な作品を一般の劇場、そして菊の会スタジオで精力的に上演、日本舞踊の振興に大きく貢献していること。それは国内に限らず北米、中南米、ヨーロッパ、アジアさらにアフリカなど、全世界に広がっており、多くのファンを作り出しています。

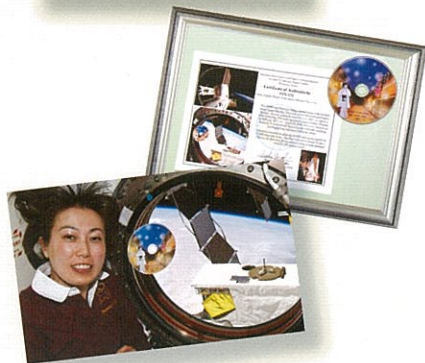
日本舞踊はわが国が誇る優れた芸術文化ですが、率直に言って現在芸術的にも経営的にも大きな問題をかかえているように思います。洋舞も同じです。そのなかで伝統を守りつつ、新しい息吹を加えて、それを打開しようという動きも少しずつ現れています。創立三十九年目を迎えた畑さんの菊の会は、先見の明あるそのパイオニア的な存在。お体には十分注意されて、これからも質の高い舞台を創りつつ、日本舞踊のみならず舞踊界全体に刺激を与え続けて下さい。



山崎直子宇宙飛行士がクルーと共に、菊の会スタジオを来訪!



山崎直子宇宙飛行士と STS-131 のクルーの皆様が和服姿で記念撮影



山崎宇宙飛行士より宇宙を飛んだ「雪の華」のDVDとフライト証明書を戴きました。

人類の夢と希望をのせて、世紀のミッションを遂行され、無事宇宙から帰還された、山崎直子宇宙飛行士が STS-131 のクルーと共に、6月29日、菊の会スタジオを来訪され歓迎会を催しました。

広間で心尽くしの和食を召し上がって頂いた後、山口大学教授 (JAXA 顧問) の西浦みどり先生の華やかな司会進行により、菊の会の小学6年生の佐竹光一君が英語で歓迎の挨拶。続いて畑道代表から歓迎のメッセージ披露、更にご多忙のなかお越しくださった、外務省・竹元正美大使からミッション成功を祝すご挨拶を頂戴しました。

そして、山崎直子宇宙飛行士の御礼のスピーチに続きクルー一人一人からミッション報告を兼ねた挨拶がありました。

そのクルーの皆様から畑道代表に宇宙飛行記念の額の贈呈がありました。その額の中には15日間宇宙を飛んだミッションパッチ・日本国旗が付いており、大変貴重なものです。

それから、いよいよ菊の会公演メンバーによる歓迎の舞台となり、お祝いの「寿菊三番叟」、勇壮な「祝い太鼓」と各地の郷土舞踊を心を込めて披露し最後の「阿波おどり」では、山崎飛行士はじめクルー全員は勿論、山崎さんのご両親や、遠くは北海道、北陸や、九州からのご来賓の皆さんも踊りの輪に加わったの楽しい時間となりました。

その後記念の写真に納まり、クルー一行は「日本の一夜を満喫した」と喜んでいただく事が出来ました。

今回の STS-131 ミッションでは、畑代表が監修した着物を着て宇宙で舞うという、これまでに無い、宇宙からの日本伝統文化の発信が出来ました。

これらの企画、運営全てをプロモートした、菊の会寺門本部長は「宇宙と日本の伝統という、異なるカルチャーの結びつきが共に青少年へ夢を与えることを願ってゆきたい」と語られ歓迎の宴を結ばれました。



大成功で帰還された山崎宇宙飛行士との再会を喜ぶ畑代表

舞踊家の条件

舞踊評論家
平野 英俊



「舞踊家の条件」ということだが、今の世の中、個人が自称すれば、それで済む世の中である。特に肩苦しく考えなくていいと思う。

ただ、近年、文化庁などの書類で「舞踊家」は、バレエダンサー、コンテンポラリーダンサー、フラメンコダンサーなどを指し、「日本舞踊家」は「舞踊家」と呼ばないことが多い。これは「舞踊」の語が、バレエ、ダンスの翻訳語として定着しだしているからである。「舞踊」の語は「舞」と「踊」が合成された語として意識されにくくなっている。

今の「日本舞踊家」というのは、昭和三十年、四十年代までは「舞師匠」「踊師匠」であり、世間では「お師匠さん」の愛称で親しまれた呼称の人たちだった。

そんな伝統の中で、大正、昭和の「新舞踊」運動のスターたちは「舞踊家」という「芸術家」であり、少女たちのあこがれの的存在だった。日

本全体が近代化の道を歩む中、戦中戦後は、「お師匠さん」達は「職能舞踊家」の道を余儀なくされ、レッスン(稽古事)の「職業」と、表現者としての荷を背負う「舞踊家」として位置づけられてきた。国管轄の社団法人の団体が出来、国の文化政策やNHKの支援のもと活発な活動を続けてきたが、バブル景気を過ぎて、外国の優秀舞台芸術が日本に頻繁に上陸しだすと、「能楽」「歌舞伎」「文楽」と並ぶようにあった「邦楽・邦舞」があつという間に「伝統芸能」の一翼では残るものの、現代舞台芸術から排除されているのが現状である。「日本舞踊家」という呼称は今「伝統、伝承」の「芸術家」の意味と解釈できる。

「廂を貸して母屋を取られた舞踊家」という呼称を二十歳代、三十歳代の「日本舞踊家」に、私は取り戻してほしいと思う。

去る平成22年6月3日(木)、東京新聞社主催による平成22年度「舞踊芸術賞」を畑道代こと尾上菊乃里が受賞しました。表彰式は東京都・一ツ橋の如水会館にて行われました。

舞踊芸術賞は、東京新聞社が芸術の向上発展を奨励するため「舞踊芸術賞」を制定した賞で、毎年1回、舞踊芸術の向上発展に寄与した邦舞および洋舞の舞踊家に贈ってこれを表彰。受賞者は各舞踊部門において近年もつとも顕著な功績を挙げている舞踊家、円熟の境地に達した舞踊家が選ばれています。本年の「舞踊芸術賞」の選考会は、三枝孝榮氏、龍居竹之介氏、藤間蘭景氏、藤井修治氏、牧阿佐美氏、金井英三枝氏の6委員により選考され、東京新聞社事務局長森要造氏より表彰されました。



東京新聞社主催

第58回舞踊芸術賞に 畑道代代表が決定!!

第12回「さつき会」～次代を担う若者達の舞踊会～

菊の会の代表作

「カッチャ行かねか この道を」新生公演



「浦島太郎の
”トッチャ”」

第十二回さつき会の公演を拝見いたしました。試合開始ゴング早々、的確な連打の猛攻を受けてあえなくノックアウト。第一部、古典の部のことである。すでに私の存知上げない若い方々が、奥深い古典をこれ程まで見事に!!と唸ってしまいました。中には未恐ろしささえ感じさせる二世(正確には三世)の方まで・・・これから益々、本当に楽しみます。

さて第二部の”カッチャ行かねかこの道を” 緞帳が上り始めると期待感と同時に自分が客席ではなく、すでに舞台袖で胸を高鳴らせつつスタンバイしているような不思議な気分で見入ってゆきました。

三十数年も前になりますか・・・畑先生から”カッチャ” 出演のお話を伺った時”とんでもない!”と必死でお断りしたことが鮮明に蘇ります。何しろ、トッチャ留吉の役です。踊りの素養皆無



舞踊劇「カッチャ行かねかこの道を」ラストシーン

た。数々の想い出と共に私の大切な”宝物”となっており。今回はすっかり世代交替の正に新生公演となりましたが誠に素晴らしい出来映えに目を見張りました。畑先生のカッチャを彷彿とさせる佐枝役の土屋明日香さんをはじめ全出演者渾身の熱演は感動でした。そして初代トッチャといたしましてはいやでも新トッチャに注目です。ガーン!! 又してもノックアウト。新トッチャの飯田栄志さん、初代がどう逆立ちしても太刀打ち出来ぬ美男の留吉。これならば佐枝さんもさぞや幸せ! そして当然のことながら飯田トッチャが美事に踊りを決めるたび、「これでなくっちゃ!!」と手を叩いておりました。

そしてやはり自分が出演した時には見えていなかった三隅先生の作、構成の素晴らしさを改めて感じさせて頂きました。菊の会の御箱として更に更に練り上げてゆかれます様念願いたしております。素的な舞台、本当にありがとうございます。



俳優 小沢 象



長唄「供奴」



常磐津「団子売り」



長唄「菊の泉」

トルコ・オマーン視察 中條 幸子



前回トルコでお世話になったスナさん(中央)と牧志さん(左端)と視察メンバー



今秋開催予定の「絵画彫刻博物館」劇場正面



ヨーロッパとアジアの分岐点トルコ、ボスポラス海峡

この度、今秋のトルコ・オマーンでの公演が平成22年度文化庁国際芸術交流支援事業に採択されました。それに先立ち、6月15日から23日まで、原副代表、谷元事務局長、舞台監督、照明プランナーと共に両国を訪問致しました。滞在中は天候にも恵まれ、在トルコ共和国日本国大使館特命

2004年の「日本トルコ国交樹立80周年」祝賀の公演に続き、トルコでの公演は2回目となります。1890年9月オスマン帝国の軍艦が和歌山県串本町沖で沈没し、周辺の住民が乗組員を救助し帰国に至るまで力を尽くしました。これより120年の佳節を迎えた本年は、「2010年トルコにおける日本年」と制定され、現地では、日

全権大使 田中信明様、在イスタンブール日本国総領事館総領事 林克好様、在オマーン日本国大使館特命全権大使 森元誠二様はじめ、現地の日本大使館のスタッフの方々のご尽力により無事に現地視察を終える事が出来ました。

本を広く紹介する記念式典等が盛大に開催されており、その締め括りの事業として菊の会の公演が博した前回のトルコ公演を覚えて下さっている方も多く、今から大きな期待を寄せて頂いております。また初訪問となるオマーンでは、カブース国王御即位40周年を記念し、「菊の会の舞踊」が日本を代表して祝賀するという大変意義深いものとなります。オマーンは海に囲まれ、古くから豊富な航海文化と独自の伝統を重んじながら発展してきた国です。文化や国民性は日本に似ている部分も感じられ、今回の菊の会公演が日本と両国の文化交流の更なる発展の一助となる事を念頭にトルコ、オマーンの国民、そして関係者の皆様からのご期待にお応えできるよう、本公演の大成へ向けて準備を進めてまいります。

菊の会山梨公演鑑賞と平山郁夫シルクロード美術館鑑賞ツアー

ご旅行期間 **10月8日(金)日帰り**
ご旅行代金 **お一人様：19,500円**

【チケット代込み、昼食、軽食付】

※お申込みは、
(株)セブンカルチャーネットワーク

Tel 03-6238-3085 / Fax 03-6238-6997
担当：高橋・武田

Information

2010年秋の菊の会公演予定

【日本のおどり】～新涼に舞う～

公演日：2010年8月8日(日)
時間：15時開演(30分前開場)
会場：所沢市民文化センターミュージズ
チケット：自由席5000円(当日5500円)
一部指定席6000円(当日券6500円)

【東京アトリエ公演】～初秋に舞う～

公演日：2010年9月4日(土)・5日(日)
時間：12時・15時・18時30分開演(30分前開場)
(5日は12時・15時のみ)
会場：菊の会スタジオ
チケット：4200円(当日4500円)

【菊の会八瀬公演】～清秋に舞う～

公演日：2010年9月24日(金)～26日(日)
時間：12時・15時・18時30分開演(30分前開場)
(25日・26日は12時・15時のみ)
会場：菊の会京都八瀬研修所
チケット：4500円(当日5000円)

菊の会トルコ・オマーン派遣記念公演

【日本のおどり】～錦秋に舞う～

10月7日(木) 浅草公会堂(東京都)	14時開演
8日(金) 山梨県立県民文化ホール(小ホール)(山梨県)	18時開演
10日(日) ふれあいプラザさかえ(千葉県)	14時30分開演
12日(火) こまつ芸術劇場うらら(石川県)	18時30分開演
13日(水) 石川県立音楽堂 邦楽ホール(石川県)	14時30分開演
16日(土) 鹿嶋勤労文化会館(茨城県)	14時30分開演
11月6日(土) 日野市民会館(東京都)	14時30分・18時30分開演
8日(月) キラリふじみ(埼玉県)	14時30分・18時30分開演
12月14日(火) タワーホール船堀(東京都)	14時30分・18時30分開演

チケット：自由席5000円(当日券5500円)
一部指定席6000円(当日券6500円)

■お問い合わせ

菊の会事務局 03(5983)6001
京都八瀬研修所 075(712)8701

「心機一転」

COFFEE BREAK コーヒープレイク

菊の会八瀬研修所は比叡山や高野川といった豊かな自然に囲まれた美しい所であり、研修所から見える山やお庭には四季折々の花が咲き、都会では出会えないような鳥や虫たちもやってきます。空気も美しく、全てがキラキラ輝く新緑の季節や燃えるような紅葉の季節、またある時は深い霧がかかってくるで墨絵のような景色、雪に覆われシーンと静まり返る白銀の山々等、季節や天候によって全く違う表情をみせてくれる自然はなんと偉大で美しいのだろう、と日々感動しています。

春と秋に行われる、アトリエ公演には毎回、公演と共にその風情を楽しむに、関東や東北、また北陸や九州から、そして最近では海外からのお客様も増え、賑わいを増しています。

先日お見えになったお客様も八瀬の景色を眺めながら「本当に心が癒されますね。」としみじみおっしゃっていらっしゃいました。このような素晴らしい環境で勉強させて頂き、心から感謝致しております。五年前の夏、夢を失くし落ち込んだ私の人生に、畑代表は「あなたの人生の花を咲かせよ。」と、私に語りかけました。

この八瀬研修所から新たな出発をさせて頂きました。

研修所のお庭に一本の杏の木があります。杏の花は、同じ木でも土や環境によって花の色が変わることがあるそうです。厳しい状況の中で耐えて育つたものは恵まれた環境で育つたものに比べ、より一層美しいピンク色の花を咲かせるのだ、と庭師の方より教えて頂きました。「人間も同じです。」と言われハッとしました。物質的に恵まれて、どんどん便利な世の中へと進化し続ける現代だからこそ、困



天舞グループ三期生 柴田亜矢子

【プロフィール】

11歳より畑道代に師事。
2001年ニューヨーク・ロサンゼルス公演参加。その他「カッチャ行かねこの道」 「藍の女」「阿国かぶき」などにも出演。
現在、京都八瀬研修所の中心メンバーとして京都を中心に活躍中。

難な事から逃げないで心身を鍛えていくことがいかに大切か、そして自分自身を磨いた分だけその人らしい花を咲かせていくことが出来るのはいかにと、そんな花を一日も早く咲かせることが出来ます様、これからも精進して参ります。